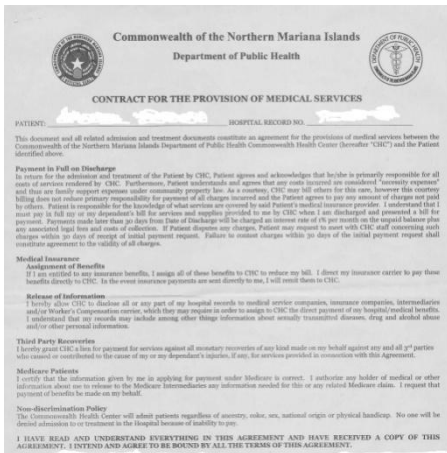


Saipan Commonwealth Health Center 入院体験 2009

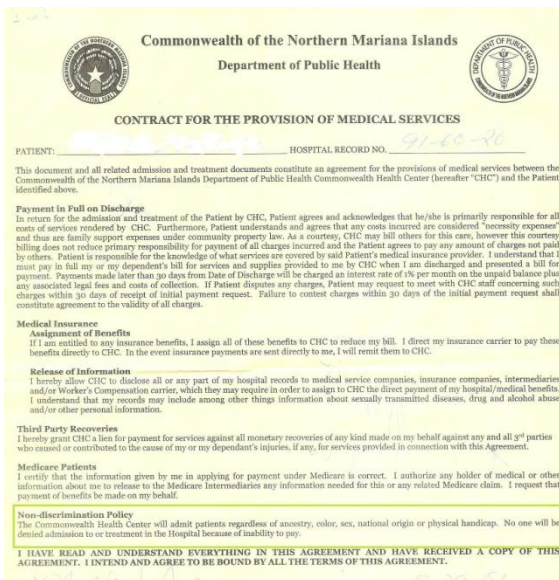


2009年8月のサイパン研修の際、入院しました。人生で初めて。テニアンのエノラ・ゲイ記念碑のすぐ隣にある旧日本軍基地を見学後、バスに乗り込む際突然気を失って後ろ向きに倒れ、その後めまいが収まらず、学生を松本ウィリー氏に預け1人で飛行機に乗ってサイパンに戻り、松本綾子氏に空港で迎えてもらい、サイパン唯一の総合公立病院かつ24時間患者を受け付けているCHCに直行。待たされることもなくスムーズに診察が行われ、そのまま帰国まで3日間の入院が決定。特に聞かれた記憶もないですが、相当広いトイレ・シャワー付個室に入れられ、脳外科医師のいるグアムに頭部CTスキャン画像を送り安全確認。医者はバリバリのアフリカ系女性。看護師たちは皆フィリピン人(かと)。幸い吐き気は起きなかったものの、きついめまいがおさまらず、普通に歩けなかったのですが、「トイレに立つ時など必要ならいつでも声をかけて下さい」と頼もしい声かけをしてもらい安心できました。松本夫妻が良く面倒みて下さったこともあり、首にムチ打ち用のギブスを装着し「安静(熟睡)」にしていました。日本の保険会社に提出する書類もしっかり作成してもらい、明朗会計。サイパンの病院はプロフェッショナルで効率的・安心して治療を受けられるという好印象を持ちました。しかし後日調べてみると、2010年時点で、サイパンの財政難はこのCHCの経営にも影響を及ぼし、医療設備のメンテナンスや薬品の補充もおぼつかない状況と。2013年には赤字破産危機を監査するチームがアメリカ本土から来た様子。私がしっかりしたケアを受けたのは、とりあえずラッキーでした。

*小さめの写真は『グローバルオーシャンダイバーズによるサイパン情報』から転載させていただきました。



入院決定して真っ先にさせられたことは、「治療に関わる全ての費用を、病院に提出したクレジットカードに請求またはカードから支払いさせる権利を病院に認めます」という誓約書を手書きすること。書かなければ入院できないし、言われるままそこらへんにあった紙に、こんな風到手書きを。しかしどうもこの紙切れ一枚が、その後の手厚いケアを決定したのではないかと・・・と。実は2013年8月時点で、サイパン最大のこの総合病院は、請求・集金システムが機能せず、サービス停止寸前まで追い込まれる羽目に陥るのです。



『医療サービス提供に関する契約書』にもサインしました。最後の条項（緑色で囲んである部分）には『当病院では患者の祖先、皮膚の色、性別、出身国、または身体障害(ancestry, color, sex, national origin, or physical handicap) に関わらず入院を認める。入院費や治療費の支払い能力の欠如を理由に入院もしくは当病院での手当てが拒絶されることはいかなる場合もない。』という契約はいかにもアメリカン（の制度を導入した）と思いましたが、現実には甘くはない様子。



病室はテレビもあって快適。ベッドの寝心地も最高。いや本当に施設そのものは良かったです。
病院食ははっきり言ってまずかった。もっともおいしい食事では有名な病院というのは世界中みてもあまりないでしょう。サイパンの病院食の写真を紹介します。お米とパンと一緒に出るところがサイパンらしい？



「日本に戻る飛行機に乗るのも心配だわ。最低 1 ヶ月は安静にして」と主治医に言われたのですが、3 日目の朝退院しそのまま空港へ。首はムチ打ち症状で回らないし、腰の骨にはかすかなヒビが入っていたのですが、日本に帰国後 1 週間にはゼミ 4 期生を引率してサイパンに戻りました。旅行キャンセル代 9 人分を私が負担するのは大きすぎるという理由と、教務課から「労災の申請するともものすごく面倒ですよ」といわれた事にもカチンときたため。首の痛みが完全に消えるのには半年以上かかりましたが、腰の痛みは、南雲中将自害の地を目指して地獄谷を登っていたら、何かキラキラするものが・・・あらあれは何？と思った瞬間、消えてしまいました。こういうときサイパンの不思議を感じました。

領収書は退院から 1 週間後くらいに日本に郵送されてきました。請求書でないのは、入院時に無条件で支払いますとクレジットカード番号を提出してあったから、すでにこの額はチャージ済みであるため。

トイレ・シャワー付個室病室は食事やテレビ代含めて 1 泊 303 ドル (3 万円)。 頭部 CT スキャンは 230 ドル、その解析や血液検査などのラボ関係費用が 78 ドルほど。点滴・薬代 45 ドルほど。PRO FEE は看護師・ラボ技術者など全ての医療従事者のサービス費用で、これが合計 280 ドルちょっと。 2 泊 3 日の入院費用は 1242 ドル 2 セント となりました。

これが高いのかリーズナブルなのかかわからず。むしろアメリカ水準にしてはあまりに安すぎないか、何か

間違っていないか、と心配になり、このあと続々と領収書が送られてくるのでは？と戦々恐々でした。いずれにしても 2009 年度サイパンの病院での入院体験はなかなかよろしかった、とこのエッセイを書き終えかけて、ふと気になり追加リサーチをしたところ、『サイパンのダイビングショップ グローバル オーシャンダイバーズによるサイパン情報』にて次のようなブログを見つけました。うーむ、やはり謎の領収書あたりに問題の核心はあったようです。

サイパン唯一の病院大混乱 (2013 年 8 月 12 日) By Haidee V. Eugenio Reporter

<http://blog.godivers.net/?eid=1225037>

イノス知事はサイパンの唯一の国立病院であるCHCに対し非常事態宣言を出すかどうか検討しています。病院の薬局や治療部門の集金がきちんと行われていないなどの根本的な問題があります。現在、アメリカ本土より調査団がサイパンに来てその業務内容を監査しています。サイパン国立病院は請求システム 集金システムが上手く機能していません、大赤字になっています。そのため公共虚金をはじめ、薬剤費、など多額の未払いがあり、病院として機能しなくなっています。サイパン国立病院はサイパンで唯一の入院設備も完備した本格的な病院です。アメリカ公衆衛生局、内務省などの援助により抜本的な改善を行っています。

これもサイパンの悪い所です。何か問題が起きたときにその場限りの解決策しか行わず、根本的な解決策は中々とりません。そのうちにどうしようもなくなり、いつもお騒がして、アメリカ本土の助けを借りて改造を行います。でもしばらくはこの方針に従いきちんと運営されますが、しばらくすると、まーいいやと言うことできちんと決められた手続きがなされなくなります。それで。又どうしようもなくなり改造です。我々から見ると何をやっているんだと思いますが、ローカルの間では楽しくやっています。これもサイパン文化ですね。これは文化ですので、これに立ち向かうことは、サイパン社会の伝統、習慣に立ち向かうことです。

サイパン国立病院巨額の未収金(2014 年 3 月 16 日) <http://blog.godivers.net/?eid=1225295>

サイパン唯一の国立病院(Commonwealth Healthcare Corp サイパンでは CHC と一般に呼ばれています) は前会計年度 41 億円の未集金があることが発表されました。CHC はサイパンの唯一の国立病院であり、十分な入院設備も持っています。サイパンでは何かあると、この病院に入院です。救急車載せられるとほぼ 100%この病院に搬入されます。このほか 2-3 の入院設備をもった私立の病院はありますが設備の点でこの病院がサイパンでは一番でしょう。でもサイパンの人々はお金を持っていません。多くの場合に支払いをせずに退院します。未払い金があるときには次回この病院に行った時には診療はしてくれません。まず前回の未払いを支払いなさいということです。ただし急病の時には、人道の問題で診療せざるを得ません。患者のほうもそれを心得ていて診療に行きます。サイパンでは掛けで物を売っていくところはほとんどありません。このような習慣がいいのか悪いのか微妙な所ですが、お金を貸したら返ってきません。サイパン国立病院もこの例です。果たしてこの多額の未集金をどのようにするのでしょうか。集金は尋常的手段では不可能です。